

インドネシア国内における使用ワクチンに関する情報まとめ

(5月12日時点)

在インドネシア日本国大使館まとめ

(注: WHO発表、インドネシア政府発表及び報道による情報を取りまとめたもの)

1. シノバック社製ワクチン

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み(2021年1月11日)

【対象年齢】12歳以上

【成分】不活化ウイルス

【有効性】臨床試験で65.8%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】無し(MUIがハラールである旨の宗教令発出)

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

2. アストラゼネカ社製ワクチン

【原産国】英国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み(2021年3月9日)

【対象年齢】18歳以上

【成分】ウイルスベクター(アデノウイルス型)

【有効性】臨床試験で62.1%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛、血栓等

(注: 因果関係は明らかでないが、血栓症をワクチン接種後に発症した例がある。)

【豚由来成分】有り(MUIがイスラム教徒でも接種可能と公表)

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

3. シノファーム社製ワクチン

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み(2021年4月29日)

【対象年齢】18歳以上

【成分】不活化ウイルス

【有効性】臨床試験で78.0%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】有り(MUIがイスラム教徒でも接種可能と公表)

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

4. モデルナ

【原産国】米国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年7月1日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】メッセンジャーRNA

【有効性】臨床試験で94.1%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

5. ファイザー社／ビオンテック社製ワクチン

【原産国】米国／ドイツ

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年7月14日）

【対象年齢】12歳以上

【成分】メッセンジャーRNA

【有効性】臨床試験で95.5%（16歳以上）及び100.0%（12～15歳）

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

6. スプートニク

【原産国】ロシア

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年8月25日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】臨床試験で91.6%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

7. ジョンソン&ジョンソン社ワクチン

【原産国】米国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年9月7日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】臨床試験で67.2%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

8. カンシノ

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年9月8日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】ウイルスベクター（アデノウイルス型）

【有効性】臨床試験で63.7%

【安全性】接種部位の腫れ・痛み、発熱、頭痛等

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

9. Anhui Zhifei Longcom Biopharmaceutical 社ワクチン

【原産国】中国

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年10月7日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】遺伝子組み換えたんぱく質

【有効性】臨床試験で81%（デルタ株に対し、77.47%）

【安全性】接種部位の痛み、倦怠感、咳、熱など

【豚由来成分】無し（MUIがハラールである旨の宗教令発出）

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

10. COVOVAX

【原産国】インド

【状況】インドネシア国内緊急使用承認済み（2021年11月17日）

【対象年齢】18歳以上

【成分】遺伝子組み換えたんぱく質

【有効性】臨床試験で約90%

【安全性】接種部位の痛み、倦怠感、筋肉痛、頭痛など

【豚由来成分】今後判明

【WHO緊急使用リスト】掲載済み

※ ゴトンロヨン・ワクチンプログラムで使用するものとされている種類のワクチンについて、無償で提供されたものに関し、政府主導ワクチンプログラムでも使用可能であるとしています